

采田福地——台博館藏平埔傳奇

采田福地——台湾館藏平埔傳奇

대만박물관소장이 采田福地에서 발굴한 핑푸(Pingpu)족의 전기

Legacy of the Pingpu: An Exhibition of the Pingpu-Related Collections of the National Taiwan Museum

文・圖 | 吳佰祿 (台灣博物館典藏管理組研究人員)

日本語翻譯 | 石村明子

平埔族分佈於台灣西部、東北部平原及海岸低地，位居台灣早期對外的入口門戶。在近代，他們是吸引外界目光的主要文化櫥窗，外界對台灣的印象常以首當其衝的平埔族人為藍本。他們當時鮮活的奇風異俗，似乎就是了解台灣風土民情的「關鍵要素」，同時也是剖析台灣社會的「活標本」。其後隨著台灣「移民社會」的發展，平埔族群傳統生活空間、社會環境逐漸為此新社會體系包圍，其「關鍵性的角色逐步淡化，其特殊性在大環境中日漸萎縮，成為被「邊陲化」的疏離群體；同時，其文化特質以及「我族觀看」的方式也產生內部「轉型重組」。

館藏平埔文物精品 首次辦特展

以原住民文化歷史發展（或困頓）角度審視台灣近代化的歷史圖像，是台灣本土研究的一項新嘗試。近年來，「平埔學」蔚為顯學，許多學者紛紛湧入此研究領域，重新發現「本土資料」，透過地下考古遺物、殘存的歷史圖像、古文書手稿、語言學語料，

平埔族が分布する台湾の西部・東北部の平原や海岸低地は、早くは台湾の入り口でもあった。近代において、彼らは人目を引きつける主な文化の窓であり、部外者にとって台湾の印象といえば、まずは平埔族であった。当時のその新鮮な奇習は、どうやら台湾の風土や民情を理解するための「重要な要素」のようであり、台湾社会解剖の「生きた標本」でもあった。その後、台湾の「移民社会」の発展により、平埔諸族の伝統的な生活空間、社会環境は徐々に新しい社会の体制に包囲され、その「重要さ」はだんだんと薄れ、特殊性も日に日にしぼみ、疎外され「周辺化」したグループとなってしまった。それと同時に、内面においても文化的特質や「我々集団観」の「変換再編」が起こった。

貴重な平埔收藏品 初の特別展示

原住民文化の歴史的発展（あるいは困窮）という視点から台湾近代化という歴史絵を見ると、これは、在来文化研究の新しい試みである。近年「平埔学」がポピュラーな学問とな



1



2

1. 台博館「采田福地」平埔傳奇海報中，可見已修復完好的岸裡大社頭目潘敦仔畫像。
台湾博物館「田福地」平埔傳記のポスターにある修復後の岸裡大社の頭目・潘敦仔の肖像画。
2. 《忠義統轄九社岸裡大社主教翁行樂圖》。
「忠義統轄九社岸裡大社主教翁行樂図」

及遺存的少數生活文物、儀式風俗，以發現潛藏在錯綜複雜的文化歷史圖像下深刻的族群歷史經驗，以及這些經驗多面相的表現形式，藉由此類整合與詮釋，構成一種「多面相」、「多層次」的綜合系統，而博物館典藏標本也是此光譜的一環。

國立台灣博物館從日治時代以來的文物蒐藏淵源，有幸保存了許多平埔族近代文化傳奇的遺物，包羅萬象的生活器物、綿延三百餘年的文物時間縱軸、內容廣泛且互有關聯，使這些尚存的珍貴文物獨具意義，並精選其中約330件藏品舉辦本展。

展覽四部曲

本展覽分為四部份。首部曲「地下文化廊道——龍門舊社遺址」，透過與凱達格蘭平埔族三貂社淵源密切的龍門舊社遺址考古遺物，說明平埔族在約200至400年前對外接觸

り、多くの研究者がこの研究分野にかかわり、改めて「在来資料」を発見し、地下の考古学出土品、残っていた古絵画、古文書の手記、言語学資料、残された数少ない生活用品や儀式の風習を通じて、複雑に絡み合う文化の歴史絵に潜んだ深刻な民族的歴史経験を見出している。そして多面であるこれらの経験の表現形式は、このような整合と解釈によって、「多面」、「多層」という総合的な体系を構成する。博物館の標本もこの一環である。

日本統治期より収蔵を開始した国立台湾博物館は、近代文化を伝える平埔族の物品を幸運にも数多く保存しており、あらゆる生活用品、300年あまりに亘る時間の縦軸、そしてその幅広さとそれらの互いの関連により、残されたこれらの貴重な収蔵品に特別な意義を与えている。今回はその中からさらに約330件の収蔵品を精選し展示した。



三貂舊社遺址出土幾何印紋陶。
三貂旧社の遺跡から出土した陶器。幾何学文様が施されている。

過程中，本土文化與外來元素交融的特色，這也是平埔族有別於其他原住民族諸族的關鍵。

二部曲「蠻貊與異域——圖像世界的解讀」，透過早期歷史圖像及風俗圖繪說明平埔族群與台灣近代發展的關係，以及在由陌生而熟悉的過程中，殖民、統治群體對平埔族的一般印象，可一窺平埔族早期生活風貌，也突顯出對異文化的「觀看」方式實為政治經濟管理的概念支柱。

三部曲「由『生』而『熟』——清代平埔族群的歷史定格」則透過歷史文書檔案，如北部凱達格蘭族古文書、中部巴宰族「岸裡大社文書」、南部西拉雅族「新港文書」等，以追溯平埔族在清代納入官方管理體制的過程，及其應對此變局的方式，呈現其社會特性的劇烈轉變。

四部曲「『原真』與『涵化』——平埔族群文化進行式」，則透過民族學文物呈現其多方面生活與文化內涵的特質與變遷軌跡，最後並以巴宰族岸裡社清代潘氏家族為例，說明「家」的概念轉變實為平埔族廣泛文化重組的主要關鍵。

展示4部作

今回の展示は4部に分かれている。1部目は「地下の文化回廊——龍門旧社遺跡」で、ケタガラ平埔族・三貂社の起源と関係の深い龍門旧社遺跡の出土品を通じて、約200～400年前まで平埔族と外部との接触において、在来文化と外来の要素が交じり合うという特色を表しており、これも平埔族が他の原住民族諸族とは異なる、という鍵となっている。

2部目は「野蛮と異界——絵の世界の解読」で、早い時期の歴史絵や風俗画を通じて平埔諸族と台湾の近代発展の関係を説明しており、不知と熟知の過程において、植民地支配や統治者の平埔族に対する一般的な印象から、早い時期における平埔族の生活の風貌を窺うことができる。また、異文化を「見る」方法は実際は政治経済の管理コンセプトの支柱であるという点が際立っている。



巴宰族年祭布掛旗錦標。
バゼツへ族年祭の布掛優勝旗。



噶瑪蘭族高冠人像木雕板。
カウアラン族の高冠人像木雕彫板。



康熙54年（西元1715年），諸羅縣正堂遴委阿莫為土官給發信牌。
康熙54年（1715年）に諸羅縣正堂によって阿莫が土官に選ばれた時に与えられた発信牌。

平埔文化研究展示後勢蓬勃可期

平埔族雖不在目前法定的原住民族之列，這卻絲毫不減其宏觀本土文化近代發展的價值。在可見的將來，平埔族相關研究與文化展示勢必更形蓬勃。

對平埔族文化的洞察，可說是當代成熟的原住民文化觀看與教育的試金石。由於平埔族對異質元素成熟的結合能力是其重要的文化傾向，因此在呈現平埔族傳統文化及文化變遷的消長與對話關係時，我們必需抱持更開放的態度，來看待其近代快速的文化重組與轉換。而文化研究者在說明原住民族的劇烈文化變遷所慣用的某些字眼，如「斷裂」、「解組」、「瓦解」等，它們對於平埔族相關文化面相的適用性，可能也是我們應更加謹慎小心的。◆

3部目の「『生』から『熟』へ——清朝の平埔諸族の歴史的静止画像」では、北部のケタガラン古文書、中部のパゼツへ「岸裡大社文書」、南部のシラヤ「新港文書」などの歴史文書資料を通じて、平埔族が清朝政府管理体制に組み込まれる過程、この変化に対応する方法を辿り、社会的特徴が急激に変化する様子が示されている。

4部目は「『初真』と『変容』——平埔諸族文化の進行形」で、民族学の収蔵品を通じて生活の様々な面や文化的な内面の特質とその変遷の軌道を示しており、最後にパゼツへ岸裡社の潘家の家族を例にして、「家」の概念の変化が広く平埔族の文化再編の主な鍵となっていることを説明している。

平埔文化研究の展示は今後も盛んに

平埔族は現在法律では原住民族とは認められていないが、マクロな視点から見る在来文化の近代における発展の価値が減少することは全くない。近い将来、平埔族関連研究・文化の展示はいつそう盛んになるだろう。

平埔族文化の洞察は、現在、成熟した原住民文化を見る眼と教育の試金石であると言えるだろう。異質なものと結びつくという平埔族の成熟した能力は、重要な文化的傾向であり、そのため平埔族の伝統文化とその変遷の盛衰および対話の関係を示すとき、我々はよりいつそう開放的な態度で近代に起こった迅速な文化再編と変換に対処しなければならない。また、文化研究者が原住民族の激しい文化の変遷を語るときに使われる「断裂」、「解体」、「瓦解」などの言葉について、これらの使用が平埔族文化のさまざまな面において適切かどうかについて、我々はいつそう慎重にならねばならないだろう。◆

